



報道発表資料

2011年8月3日

フォーティネットジャパン株式会社

米国時間 2011 年 7 月 29 日に発表されたプレスリリースの抄訳です。

FortiMail が Virus Bulletin 誌のアンチスパム アワードを 13 期連続で受賞

スパムメール検知率の向上と誤検知率の低下が評価され、
メッセージングセキュリティ アプライアンスが VBSpam 認定を獲得

ネットワークセキュリティのリーディングプロバイダーであり、UTM (Unified Threat Management : 統合脅威管理) ソリューションの世界的リーダーである、フォーティネット (Fortinet, Inc. 本社 : 米国カリフォルニア州サニーベール NASDAQ : FTNT)は本日、同社の FortiMail メッセージングセキュリティ アプライアンスが Virus Bulletin 誌の VBSpam アワード認定を 13 期連続で受賞したことを発表しました。

Virus Bulletin 誌のチームは、FortiMail のほか、複数の国から集められた他のアンチスパム 17 製品を対象に、スパムメール検知率と誤検知率に関するベンチマークテストを実施しました。13 期連続で受賞したことに加えて、同レポートでは、FortiMail はテスト対象のすべての正規メールを間違えてブロックしなかった 4 製品のうちの 1 つであると言及されています。

フォーティネットのプロダクトマーケティング担当バイスプレジデントである Patrick Bedwell は次のように述べています。「Virus Bulletin 誌では今月、同誌のベンチマークテストが山場に達しており、テスト中のメールデバイスに 1 日で 2 万通のスパム メッセージを送信していることを言及しています。送信されるメールの数が増えています、FortiMail はチャンピオンの座を誇っており、送信されたスパムメールの 99.79%を検知しています。同レポートで Virus Bulletin 誌によって言及されているように、13 期連続受賞した私たちにとって 13 は奇妙な数字では決してありません。私たちはメルマガのフィルタリング機能を含めることが予定されている 9 月のテストも心待ちにしています。FortiMail の多様な能力が明らかになるでしょう。」

メッセージング セキュリティ アプライアンスである FortiMail ファミリーは、小規模企業、中堅企業から大規模エンタープライズ、通信キャリア、サービスプロバイダに至るあらゆる規模のユーザに対応した、実績あるメッセージング セキュリティ プラットフォームです。きわめて厳しい要求にも耐えうるメッセージング システムとして専用開発された FortiMail アプライアンスは、スパム、マルウェア、その他メッセージに伴う脅威からネットワークを保護してきたフォーティネットの長年にわたる経験が活かされています。

フォーティネットについて (www.fortinet.com)

フォーティネットは (NASDAQ: FTNT) ネットワーク セキュリティ アプライアンスのワールドワイド プロバイダであり、統合脅威管理 (UTM) のマーケット リーダーでもあります。フォーティネットの製品とサブスクリプション サービスは、ダイナミックなセキュリティ脅威に対抗する広範で高性能な統合プロテクション機能を提供しつつ、IT セキュリティインフラの簡易化も実現します。フォーティネットの顧客には、米フォーチュン誌が選出する 2010 Fortune Global 100 の大部分を含む世界中の大規模企業、サービスプロバイダ、行政機関が名を連ねています。フォーティネットのフラグシップである FortiGate 製品は ASIC による高速なパフォーマンスを誇り、アプリケーションやネットワークの脅威から保護する多層セキュリティ機能が統合されています。フォーティネットの幅広い製品ラインは UTM にとどまらず、エンドポイントからデータベースやアプリケーションなどの境界やコアに至る大規模エンタープライズのセキュリティを保護します。フォーティネットは本社をカリフォルニア州サニーベールに構え、世界中にオフィスを展開しています。

Copyright© 2011 Fortinet, Inc. All rights reserved. ® と™のマークはいずれも、Fortinet, Inc.、その子会社および関連団体の米国における登録商標および未登録の商標であることを示します。フォーティネットの商標には、Fortinet、FortiGate、FortiGuard、FortiManager、FortiMail、FortiClient、FortiCare、FortiAnalyzer、FortiReporter、FortiOS、FortiASIC、FortiWiFi、FortiSwitch、FortiVoIP、FortiBIOS、FortiLog、FortiResponse、FortiCarrier、FortiScan、FortiAP、FortiDB、FortiWeb などがありますが、これだけにとどまりません。その他の商標は、各所有者に帰属します。フォーティネットは、サードパーティに帰する本書での声明や認可について中立的な立場で実証してはならず、またフォーティネットはそのような声明を保証することはありません。本ニュースリリースには、不確実性や仮説を伴う前向きな内容が含まれている場合があります。不確実性が現実になったり、あるいは仮定が正しくないことが判明したりした場合、そうした前向きな声明や仮説で表明または暗示された内容とは実質的に結果が異なる場合があります。史実に関する声明を除くすべての声明は、前向きな声明であると判断されるべきものです。フォーティネットは、どの前向きな声明についても改正する義務を負わず、またこれらの前向きな声明を改正する方針もありません。